

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
5	20年以上無保険で受診できずにいた肺癌患者	60	男	独居	市内に異父兄弟あり。	1人	借家、アパート	市内に借家を借りていた。	正規雇用	本人からの聞取りでは、正社員とのことだが、元気で働いていた頃の収入は5万円/月	就労収入本人	5万円未満	下回る	有	その他	無保険	生活保護				外来	不明	0か月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生履歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	自院・他院ともに受診歴なし。	両側多発性肺腫瘍		入院後、市内在住の弟より聞取り。20年ほど前に関東より帰郷し、母親と二人暮らしをしていた。母親が亡くなって以降も同じ借家にて暮らしていた。本人に含め4人兄弟(本人とは異父兄弟の関係弟二人、妹一人)。本人と弟は20年程前に初めて顔を合わせた。以降は1年に1回ご飯を一緒に食べたり、食べ物などを本人へ届けたりする関係性ではあった。R7.11月頃より呼吸苦あり。12/18家賃徴収のため大家が訪問したところ、車の中で動けない本人を発見。大家が本人から事情を聞いたところ、運転代行会社で就労していたが体調不良により就労ができず、給与が月1万円に収入が減少。また、長年無保険だったため医療機関を受診していないことが分かった。同日、大家の付き添いで市役所へ行き生活保護を申請。その後、当院受診し入院へとつながった。						受診時、SpO2 80%で呼吸苦あり。CT検査で転移性の肺腫瘍の疑いあり。両側多発性肺腫瘍の診断で入院となる。入院後主治医から兄弟へ既に終末期の段階であることの説明をしている。本人へ聞取りを試みるが、呼吸苦のため「はい」か「いいえ」でこたえられる質問が精一杯で、詳細の確認が困難であった。福祉課は担当者長期不在で、申請時に聞き取った内容の詳細が確認できず。国保年金課へ健康保険情報の照会をしたが、登録がないため情報が得られず。翌12/20死亡退院される。兄弟が御遺体の引き取りをされた。12/26担当ケースワーカーより情報提供あり。兄弟が埋葬許可申請のため来庁した際に、当市に本人住所がないことが判明した。1/23ケースワーカーより生活保護決定の連絡が入る。						入院日に、付添の家族・本人へ生活保護申請の日付確認。12/19市へ生活保護の申請を確認するも、担当者不在でその場で詳細確認ができず。生活保護申請自体は受理されていること、方が一申請中に亡くなった場合でも申請日に選んで適用となることは確認。本人の病状が危険な状況であること共有する。12/20死亡退院。12/23市へ死亡退院されたこと報告。生活保護申請時聞き取った内容確認した。収入が、5万円/月ほどで元々経済的に逼迫した生活であったことや、大家が生活保護の申請を提案し、付き添って申請してから受診されたこと等。生活保護が受理されたことで、本人及び家族に医療費の負担が発生しなかった。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
10	アルコール依存、失業、借金、無保険等の多問題を抱え、受診ができなかった非代償性肝硬変の患者	40	男	その他	離婚した妻と子ども3人(19才、高1、小3)と同居。小3の子のみ実子。	5人	社宅	本人が元々勤務していた建設会社社長名義の家に居住。社長に月々お金を払い、完済すれば本人のものになるという約束だった。	その他	SNSで東洋医学について発信を行い、収益を得ていた。	就労収入本人 就労収入家族	20万円以上 25万未満	下回る	有	保険料(税)、住民税、家賃	無保険	無保険	無	無		救急搬送	6か月	2か月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生履歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	未受診	非代償性肝硬変、アルコール性肝障害		母が育児放棄し異父兄弟と一緒に児童相談所に保護されていたことがあった。中学校卒業後に建築業界で働き始める。20歳の頃に生活保護受給し無料低額宿泊施設へ入所したが30畳を1畳ずつテープで区切られたところで集団生活するよう強いられ3日で逃げ出した経歴あり。色々な職場を転々としたが、直近で勤務していたのは、建設会社。社会保険加入だった。29歳頃に元妻と結婚。2025年3月離婚しているが、元妻の連れ子であった専門学校生と高校1年生の子ども、小学校3年生の本人の子どもと同居は継続。しかし生活実態は家庭内別居の状態と本人のみ単身世帯扱いになっていた。元妻は離婚成立以降、本人の経済状況については何も知らない状況だった。本人は2024年9月頃に会社を退職。自宅は、会社名義でローンを支払い終えれば、本人名義になる一軒家在住。同居の元妻はフルタイムで勤務しており、給料も預貯金もそれなりにある状況。もともとアルコール多飲(焼酎500ml/日ほど)のある方で2025年4月頃から慢性的な嘔気を自覚。9月初旬から腹部膨満が増悪し、呼吸困難感、倦怠感を自覚するようになった。倦怠感により、この頃から飲酒できなくなった。9月中旬に一度自宅内で吐血し、以後黒色便が継続するようになった。自宅でなんとか様子を見ていたが、10/3体調困難となり救急要請し当院入院となる。						住宅や教育ローン、その他カード会社への負債があり、合わせて40万円程度あり。自宅は法テラスへ妻が相談し、そり急ぎ退去を迫られることはなくなった。妻は今後同居であったとしても、離婚しており、本人の支援はできないことを明確にして本人単身の生活保護を申請し受理された。肝硬変は終末期の状況であり、腹水貯留により無気肺が進行。HDI導入が必要となった。腹水も慢性的に溜まるため、今後訪問診療などで穿刺が必要な状況となった。療養先の調整も含め、11/14にF病院へ転院。本人は自身でアパートを契約して1人暮らしをすることを希望していたが、予後や状態的に新規でアパート契約を行い生活することは困難であった。本人は最後まで新居を探すことを希望していたが、一旦は訪問診療や訪問看護を導入し、元の自宅へ帰る調整となり12/17に退院。12/30自宅で逝去。						国民健康保険課へ退職時に選んで国民健康保険への介入を申請。妻と同居ではあるが、離婚しており、今後支援はできないことを確認の上で単身の生活保護申請を生活福祉課へ相談し認められた。本人を単身で生活保護できたとしても、住宅ローンが返済できなくなり、元妻や子どもも居住できなくなる可能性があるため、子育て支援課にも情報共有し相談。その後、会社とも相談してすぐに自宅を退去されることはなくなり、子どもの学費保険の還付金が100万円程度見込めることがわかり、元妻たちはゆくゆく新居を選定する方向を検討。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
11	住民票を動かさずに転居を繰り返し、国保証がないことにより受診が遅れ敗血症、多臓器不全となり死亡した患者	70	女	二世帯・三世帯		7人	借家、アパート		無職		就労収入家族	25万円以上		無		無保険	無保険	無		入院後5日で亡くなり、無料低額診療事業の案内はしたものの、経済状況の詳細把握できないまま家族とは音信不通となった	救急搬送	1か月	0か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体等への働きかけ結果と対応					
			肺炎、敗血症、多臓器不全	若いころは店舗を経営。長女が母子・生保世帯のため通いで子育て協力していたがいつごろからかほぼ同居。ほぼ同居状態となっていたこと、本人高齢となったが無年金だったため生保世帯増員の話をしていところ、長女の子供たちがそれぞれ就労しだしたため生保廃止となった。本人も転居、長女宅も転居し、本人の居所は転々としていたが住民票の異動を行わなかったため最終住民票地もわからない状況で無保険状態になっていた。(同一市内での転居であったため入院後に保険資格の確認はできた)1ヶ月ほど前より咳がひどくなり、数日前からは飲食できず、認知機能低下(つじつまの合わない会話、物忘れ)、失禁状態となり家族救急要請し当院救急外来受診。入院に至る。							肺炎、黄疽、急性腎不全、血痰、浮腫などあり精査目的の入院となったが、敗血症、多臓器不全のため入院後5日で逝去される。保険証未確認で入院直後にSWが家族と面談。同居長女世帯も数か月前で生保世帯で廃止直後。経済的余裕がないとことで本人を含めた生保申請や無料低額診療事業の説明をしていたが、必要書類が揃わない等々で面談に来られず。逝去後、何度か面談キャンセルの連絡が入り以降家族とは連絡が取れなくなった。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
12	生保保護の説明不足と申請主義による貧困の見逃しで受診が遅れた肺がん患者	70	男	独居		1人	社宅		非正規雇用(パート・派遣・請負・バイト等)		年金収入本人	5万円未満	下回る	無		無保険	無保険	無	有		その他	不明	
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体等への働きかけ結果と対応					
			肺がん	他県で出生。婚姻歴は1度あるが離婚。子なし。両親、兄弟すべて他界しており、その他親族とは付き合いなし。60を過ぎ、両親が高齢となったため同居し両親とも看取った。本人は無年金だったが実家で預貯金を切り崩して生活。預金が尽きたため生活保護を受給した。年金受給の納付要件が25年から10年になったので年金を受給できる手続きをするようにと生保QWから言われて手続きをし、月4万3千円ほど年金受給開始となった。するとその直後の保護費が6000円だったため「これでは生活できない」と訴えたがQWからは上手くやりくりするよう言われた。そんな時に血痰が出たため、命に関わる重病なのだと自暴自棄になり、自宅そのまま他県に移動し路上生活をしていった。所持金数千円で公園にいたところ、ガードマンに声をかけられ事情を伝えるところ所属している警備会社に連れていかれ面接。今住んでいる寮に入り、警備員として勤務開始。給与から家賃や家電、携帯電話他リース代、生活始めた当初の前借返済など等々給与から多額に引かれるため手元にはほとんど残らないこと多かった。寮に入り住民票を移す際に、国保加入を希望したが異動前の自治体で生保受給していたことがわかと「前自治体生保に相談してください」と言われず加入できず、前自治体生保には連絡しなかったでそのまま無保険となった。呼吸器は以前よりあったが、10日ほど前より動けないほどの呼吸で仕事ができなくなったため、無料で受診できる病院を調べ、県連他診療所受診。肺がん疑い精査目的で当院紹介受診となる。							肺がん精査目的で入院。入院同日で生保申請。肺がん終末期の診断で予後数か月。当院療養型での看取り希望され入院から2か月後逝去された。							生保申請					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
15	<p>独居・貧困により受診を控え、がんの発見遅れ、化学療法の中断もあり、予後が短縮された事例</p>	60	男	独居	要介護の父、交流のない兄	1人	持ち家	持ち家であったが、MSWの介入により借金返済のため売却し、住居となる直前は賃貸の住宅(家賃:8万/月)	自営業	建設の一人親方	就労収入本人	5万円未満	下回る	有		国保特別療養費(従来の国保資格証明書)	国保特別療養費(従来の国保資格証明書)	無	無		救急搬送	6か月	1年2か月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	中断(自院)	手術⇒化学療法と治療方針があったが化学療法は金銭面の問題で中断	直腸がん腸閉塞		<p>詳細な育成歴は不明。兄がいるが金銭トラブルから疎遠となっているため、死後の身元等の引受人および死後事務については従妹が行った。職業としては建設業であるが、直近は父の介護で働いていなかったようだ。地域社会とのつながりを示すエピソードはなく、頼りになる知人の存在も記録上ない。キーパーソンとしては従妹や叔母が登場するが、病気を契機にかかわりが生じたような状況で弱いつながりといえる。</p>						<p>2024/4/3 腹痛・下痢・血便があり救急車で来院。直近1週間は食事とれず水とお菓子で生活していた。S状結腸癌StageIVによる通過障害、多発肝転移、腫瘍形成。腫瘍は大きく手術での切除は困難との診断で24/4/8に人工肛門を増設し化学療法へ移行することとした。予後は1~2年、化学療法の効果次第で長くもなり短くもなるとのことであった。その後化学療法(CapeUX6コース)を実施、その後8月~の化学療法が金銭的理由により中断がちなり、がんが進行。症状が悪化し12月になんとか再開となったが、著明な効果なく、25年4月に化学療法後の嘔気でおビイド内服できず疼痛が強くなり入院となった。その後は緩和治療を施行したが、25/6/8永眠した。</p>						特に行わなかった。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
17	<p>世帯で生活に困窮し、医療につながるが遅れたと思われる胃癌患者</p>	60	女	夫婦と子ども世帯(子が18歳以上)	家族に障害者あり	3人	借家、アパート	老朽化で取り壊し予定のある借家	年金受給者		年金収入本人 年金収入家族	10万円以上 15万未満	下回る	有	保険証(税)、家賃、ガス代、他	国保短期間の資格(従来の国保短期証)	国保短期間の資格(従来の国保短期証)	無	有	生活保護申請前の外来受診分について申請し、一部自己負担全額を免除した。	他事業所からの紹介・転送	不明	1年8か月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	治療中(他院)		胃体部癌、多発リンパ節転移、膵臓癌		<p>本人夫婦、子(精神疾患あり)の3人暮らし。別居の子1人。他に頼れる親族なし。本人夫婦、子ともに以前は製造業(同じ職場)についていた。相談時の収入は夫婦の年金のみ。子は障害年金申請中だった。相談の中で、家賃(10年間滞納)、国保保険料、光熱費、複数の医療機関への未払い、消費者金融等の負債が数百万円あることがわかり、長期間にわたり生活に困窮していた状況だと推測された。</p>						<p>2023年11月嘔気、腹痛、下血でA病院に入院し、胃体部癌の診断を受けた。癌からの出血が止まらず、高度医療機関B病院へ転院となった。すでにリンパ節の膵臓癌もあり手術不可能な病状だった。化学療法の方針となったが、医療費の支払いが困難とのことでB病院では導入に至らず。地元や紹介元のA病院ではなく、無低診を利用しての受診継続希望ということで当院に紹介された。転院相談時の情報から生活保護基準以下と思われたため、B病院MSWに生活保護申請手続き支援を依頼し、申請後に当院外来受診予定となった。当院初診時、生活保護未申請。申請に必要な書類の準備がうまくできず手続きができなかったことがわかり、改めて生活保護申請支援を開始。同時に無低診申請も行った。すぐに治療開始予定だったが、本人・家族より、無低診や生活保護受給が確定になってからにしたいとの意向が強くなり、当院初診から約3週間後の開始となった。化学療法の方針が決まってから2か月程度経過していた。無低診利用、債務整理、生活保護受給となり、その後は、胃臓造設(通過障害)、介護保険申請も行い、在宅と入院を繰り返しながら治療が継続できた。最期は緩和ケア病棟のあるC病院へ転院し死亡した。</p>						なし						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
20	家も保険もなく、友人宅を転々としながら警備の仕事で生活を築いていた男性	70	男	独居	離婚した元妻が障害を持つ子を療養	1人	知人宅(定まった住居がない)		非正規雇用者(パート・派遣・請負・バイト等)		就労収入本人	5万円未満	下回る	無	保険料(税)	国保特別療養費(従来の国保資格証明書)	国保特別療養費(従来の国保資格証明書)	無	有	外来初診日6/30、入院日7/7～生保決定日7/11までの期間に対し、無料診療適応。	外来	1か月	3か月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他		進行食道癌(低分化癌)		市内の出身。両親は他界、3人兄弟の末子。長兄生死不明、次兄は既に他界。20数年前より、家族とは疎遠。本人は結婚後、20年前に離婚。1人娘(50代)は他県在住、年1-2回連絡取り合う事がある程度で関係は希薄。元妻経由で本人状況伝わるも娘にも借金あり支援不可。長年土木業に従事。土木会社勤務歴もあるが、無年金。一人親方で自身で仕事請負う事もあった。2019年頃より、コロナの影響もあり、土木の仕事が減り、生活が苦しくなる。現在は警備員の派遣の仕事が、月に3-4回程度。1回2時間、時給1,500円。前月は4回勤務。現住所地は知人の息子宅(50代)就労しているが、生活実態なし。市内・市外の友人宅を3.4か所転々と数日単位で回り、入浴や食事をさせてもらっている。野宿はしない。1ヶ月前からの胸やけ、食後嘔吐、体重減少あり受診。入院勧められるも経済的不安あり拒否。無低診相談の希望あり、MSW介入となる。						6/30外来受診後、MSWが生活福祉課にケース共有し、入院日より生活保護申請を行う方向で本人と合意。本人は唯一頼れる先として元妻宅を訪問し、以後元妻宅で生活。7/7元妻付き添いの下、入院の決心をして来院されそのまま入院加療となる。7/11付生活保護申請書類一式を提出、後日受給決定。生活保護申請相談を行った7/7を生保開始日とする交渉は受け付けられなかった。食道腺癌ステージ4、肝細胞癌疑い、多発リンパ節転移、右副腎転移、腹膜播種の診断あり。療養型病院、医療特化型有料老人ホームへの遠隔調整を行っていたが、9/28逝去された。本人ご逝去時、自転車で駆けつけた元妻は『なにもしてあげられなかった。』『この人はかわいそうなひとなんです』『沢山苦労をした人なんです』と泣き崩れられた。娘さんも東京から来院され、納棺前に面会された。						入院前住所地は本人の居住実態なく、他人が居住しており、生活保護申請不可。よって、当院入院後に病院所在地にて現所在地保護申請の相談を行い、申請日7/11より生活保護受給が決定した。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
27	65歳年金受給にともない生保廃止され国保料支払い困難、受診拒否、自宅で逝去した事例	60	男	独居		1人	借家、アパート	エレベーターのない急な階段がある賃貸アパート	年金受給者		年金収入本院	10万円以上15万未満	上回る	有	その他	無保険	無保険	無	無		行政	不明	不明
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について(生育歴、職歴、受診経緯)						事例について(受診後の経過と転機)						自治体等への働きかけ結果と対応						
	自院	救急搬送後は中断	不明		62歳まで警備会社勤務。膝の痛みがあり退職。その後生保受給開始。NPO法人につながり(経緯不明)生活保護受給手続きと身元保証されアパート入居ができた。弟がいたが疎遠、母親は施設入所後逝去されかわりのある親族はいなかった。過去、生保受給中には入院治療を受けており医療拒否はなかった。65歳年金受給に伴い生保廃止となり、国保料の支払いが困難となり、受診拒否するようになった。						膝の痛みがあり救急搬送された。注射し軽快されたが入院の提案をうけたが本人が拒否され自宅へ。その後「病院行ってもかわらない」と言って受診せず、自宅で逝去された。						生活保護担当ワーカーから年金受給後の国保の手続きの案内はされており窓口による約束をしていたが本人がこず手続きできていない。本人は国保料のお金がなく、受診する必要はないため加入はしないとの返答だった						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
30	金銭的な困窮があり本人が受診をあきらめていた。受診した時には末期の食道癌だった。	60	男	独居		1人	借家、アパート		無職		その他	10万円以上15万未満	下回る	無		国保特別療養費(従来国保資格証明書)	国保特別療養費(従来国保資格証明書)	無	有		その他	5か月	
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)				事例について(受診後の経過と転機)				自治体等への働きかけ結果と対応											
	その他		食道癌	大阪出身。父親が幼少期に自殺。母親が宗教にのめりこみ本人も入信したが17歳で自ら脱退し実家を離れた。その後は仕事を転々としてきた。景気悪化で派遣の仕事を探求され路上生活となった。46歳で他県へ。役所に相談したがサポートが受けられず困っていたところビッグイシュースタッフと出会い販売者となった。支援者ともつながりアパートで独居。国保加入。月約11~12万の給料で清掃の仕事をしていて体調不良で2025年4月で退職。貯金も少なくなり病院に行ってもお金が払えないと思い我慢していた。				6/6に知人に連れられA病院に受診。末期の食道がんが判明。6/21に死去。															

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
32	長期にわたるホームレス状態で無保険。受診が遅れた肺がん患者	60	男	独居	離婚歴2回、実子3人いる	1人	車中(定まった住居がない)	離婚後家を出てから車中泊やホテル泊を繰り返した。体調が悪くなってからは友人の会社で寝泊り	自営業	一人親方、友人の会社の名義で仕事をし、友人の会社から給与をもらっていた。	就労収入本人	5万以上10万未満 10万円以上15万未満				無保険	その他の健康保険	無			外来	6か月	
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)				事例について(受診後の経過と転機)				自治体等への働きかけ結果と対応											
			進行肺がん	両親は離婚。腹違いの兄(7歳上)と母と生活。離婚歴2回。最初の妻との間に女子1人、2番目の妻との間に男子2人設ける。 10数年前まで、I市内で妻子と生活していたが離婚し、本人が家を出ていく。その際に家の名義から離れる手続きなどをしないうまま、養育費も支払わないうまま、車中、カプセルホテルで泊まる生活を繰り返す。仕事は電気配線工事の資格を持っていて、友人の紹介で仕事を回してもらっていた。給与は月によってかなり変動。ただ収入から仕事に係る費用を捻出しなければならぬため余裕はなかったと思われる。住民票も途中で失効。無保険。親しい友人(仕事関係)2名。兄、姪も実家の名義を本人に外してもらいたくはずっと本人を探していたが、所在つかめず。2025年1月ごろから咳嗽、5月ごろには労作時呼吸苦、悪化傾向、胸痛出現、友人の会社で寝泊り。6月くらいから食事がまともに食べられず。友人がみかねて兄宅を訪ね、本人の状況を報告。7月18日に友人、兄、姪付き添いの元体調困難で当院受診。				2025年7月18日当院受診。胸腹部CTで左肺腫瘍あり、頭部リンパ節と第一腰椎と肝臓に転移疑い。入院となる。 金曜日の17時以降の診療だった。無保険のため翌週保険の加入について国保へ相談。結局長期間の住所不定で元の住民票は失効。国保に入るにはまず住民票の取得からということになる。兄が会社を経営しており、その社会保険の扶養に入った方が、保険料の支払いも生じないということで、兄の了承を得て社保扶養となること。兄の会社の顧問社労士と情報交換しつつ社保への加入手続きを開始した。入院日にさかのぼっての保険適用は可能とのことだった。のちに生じる医療費の支払いは兄が行うとのこと。高度急性期病院での精査加療希望あり、7月30日1病院転院。結局積極的治療は困難で緩和ケアに移行。8月5日永眠したとの連絡を受ける。				国保加入について市役所保険年金課へ相談。兄家族も協力的で毎日のように行政に足を運んで頂いた。結局住民票が失効していたため、すぐに国保に入れないことがわかり、兄の社保扶養に入った方が本人の負担もないということを教えていただいた。											

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
35	恒常的に低年金で国保資格者証であったため受診が遅れた肺癌患者	70	男	独居		1人	知人宅(定まった住居がない)	知人が通帳を管理し、家賃と生活費があまりなかった。元々は知人の親せき宅に知人夫妻、従業員で住んでいたが他の住人は出ていき一人暮らしになった。徐々に体調不良と家が片付かず家の前に置いてある知人の車中を過ごすことも増えていた。	無職 年金受給者 その他	雇用関係にはないが知人夫妻が高齢で車の運転ができないため、本人が知人の車を運転し送迎。その際、外食を一緒にする、買い物をするなどの援助があった	年金収入本人	5万円未満	下回る	有	保険料(税)、家賃	国保特別療養費(従来の国保資格証明書)	生活保護	無	無	検討はしたが生活保護申請対象であることもわかっていただけ、受診と同時に生活保護を申請した	生活困窮者自立支援センター その他	3年	1か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断(他院)		肺がん	E県1市で生育。生育歴は不明、結婚歴はあり子どももいるが音信不通、生活保護申請後も連絡は拒否。50代後半で路上生活になり、その時期に知り合った10歳くらい年長の知人の会社で働き始めた。当時は知人夫妻と従業員数人で住む家があった。また、健康保険に加入していたが知人の加齢と病状などで仕事を縮小。知人夫妻は体調不良もあり自身の家族宅へ住まいを移し、徐々に他の従業員も出ていき、一人暮らしになった。その後知人は事業を維持できなくなり健保脱退。本人は国保に加入したが保険料を1年以上滞納し、受診相談時は資格者証となっていた。自身の年金の他、知人夫妻の送迎などで少額の収入、食費の支援などあり。また、家の片づけはできておらず仕事をしてた時から金銭管理が難しい様子も見られていたため、知人が本人の通帳を管理していた。小遣いとして年金の他にいくらか渡したり、食事を共にしたり、必要なものを購入したりしていた。2025年1月下旬ごろから息切れがひどくなり、胸が苦しい、動くとしんどい、食事がとれないなどの訴えがでてきていた。知人自身の生活を社協と相談していた経過もあり、当院での無料低額診療事業を知った。3月14日に知人と本人から受診相談があり、3月17日に受診、右肺癌で入院となった。							受診時より生活困窮あり、生活保護申請につく必要があったため、本人の同意をとって受診日に申請し2週間後決定となった。住まいについては契約などはなく、家賃と本人の生活費などがあまらなっていたが生活保護申請を機会に家賃の金額を決め、通帳は本人の手元で管理となった。肺癌については数年前に足の治療で他院に入院した際、肺に影があると指摘されたが「怖いから」と精密検査などを拒否し受診していなかった。当院入院時、癌は進行した状態で、当初は他院での治療も検討したが、状態が悪化して積極的治療対象にはならなかった。当院で入院継続し、4月28日に死亡退院。死亡時は知人も他院で入院中だったため、生活保護課での対応となった。住居は入院中に行政と知人の家族で整理し退居となっていた。							受診相談時から生活保護について行政と相談、受診と同時に申請、2週間で決定となる。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
36	無保険で受診が遅れた建設労働者の腎癌患者	60	男	独居			知人宅(定まった住居がない)		非正規雇用		就労収入本人	5万以上10万未満	下回る	有	保険料(税)	無保険	国保証	無	無		他事業所からの紹介・転送	3か月	7か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体等への働きかけ結果と対応					
			腎癌	福岡出身。一人っ子で両親は他界。結婚歴なし。母親は生活保護受給あり。高卒後、運送会社等に30代後半まで勤めており社会保険の加入の時期もあったが、退職後国保の手続きをしていなかった。その後職を転々とし、50歳頃までは市内にて一軒家の借家で生活していたが、知人による詐欺に遭い、その後経済的に困窮。住まいも狭い、直近は解体などの請負仕事に従事し、月15日ほど働いていた。住まいは仕事関係の知人宅に間借りしていた。住民票は前住所から移しておらず、郵便物は10年以上確認していないとのことだった。50代の頃に職場の健診にて糖尿病を指摘されるも未治療だった。							地域のAクリニックからの紹介にて2024年10月当院救急外来を受診。Aクリニックには健診目的にて初診を受診したが、空腹時血糖・HbA1c高値、胸水貯留、下肢浮腫あり。当院に紹介となった。初診時、心不全、糖尿病にて入院加療を勧められるも「どうしても会社に出さないといけない書類がある」と断り、翌日に入院となった。7月頃から労作時の息切れや下肢の浮腫があったが未受診であったこと、入院時無保険であり、MSW介入。患者は身寄りがなく、入院の連絡は仕事関係の知人B氏となっていた。B氏所有の住宅に間借りしている状況であり、B氏が住民登録、保険加入手続き支援をされ入院後に国保加入となった。生活保護申請や無料低額診療の利用を提案するも、患者は「生活保護は申請しない。医療費はBさんが支払いてくれる。働いて少しずつ返していく。」と話し、無料低額診療も申請されなかった。入院中の検査にて腎癌の肺転移が疑われ、外来フォローにて腎癌の骨・肺転移と診断された。腎癌については手術の説明がされ時期は1月頃を提案されたが、「仕事が休めない、なるべく先延ばしにしたい」との意向を示された。2025年3月当院入院。骨転移による疼痛あり、ADLも低下している状態。放射線治療のため一旦他院への転院を経て再入院。腎癌はもとも手術が検討されていたが、肺転移増大、多発骨転移もありターミナルケアの方針となった。その後退院は困難な状態であり5月17日死亡された。患者は「また仕事に行く」と生活保護申請を望まない発言をされていたが、繰り返し面接する中で自身も予後が厳しいことを認識され、4月に生活保護申請となった。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
37	無保険、日雇い労働 健診もなく手遅れ状態で受診。お腹が張って食事が入らないとことで限界まで我慢。入院からわずか1、5ヶ月で死亡退院。	60	男	独居		1人	社宅	日雇い寮	非正規雇用(パート・派遣・請負・バイト等)その他		就労収入本人	5万以上10万未満	下回る				無保険	生活保護	無	無		その他	1か月	1か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)				事例について(受診後の経過と転機)				自治体等への働きかけ結果と対応												
	その他	未治療	進行胃癌	<p>受診までの経緯) 8/24お腹の張りを感じ、その後食事が入らないとことで8/29受診された。腹部エコーにて大量腹水あり、精査加療目的で入院必要と診断された。受診時に無保険だったため、MSWより生活保護申請を提案するも申請希望されず。今までも病院受診時には10割支払いをされてきたとのこと。翌日に入院予定だったが医療費を理由にキャンセル。しかし、4日後に腹部の張りが苦しく、食欲もないと入院希望にて9/3受診。当日入院と同時に、生活保護申請となった。</p> <p>生育歴、職歴など) 病院近隣の日雇い会社寮で、H5年頃より暮らしていた。出身は九州。入院時に生活保護申請し、その時点でこれまで偽名を使われていたと話された。詳細については語られず。</p>				<p>9/31診療所受診し同日入院。大量腹水あり、腹水穿刺施行 進行胃癌疑い(4型)、胃・腹水から腺癌検出、胃癌から癌性腹膜炎となっているよう。化学療法について外科コンサルト。9/18左上胸ポート埋め込み。嘔気嘔吐継続調整。化学療法は試したが、次第に歩行困難、失禁、下肢浮腫、嘔気、食欲不振、倦怠感など症状悪化。</p> <p>帰宅は困難な状況で、寮に荷物をとりに行きたい希望はあったが、階段4階までは上ることができないと思われ、外出も出来なかった。余命を主治医に聞いた後に 最期にパチンコに行きたい、などと話をされていた。亡くなる直前まで意識レベルは高かったが、敗血症、高熱を出してから急激に意識レベル低下、10/19に死亡退院となった。</p>				生活保護を申請したが、受給決定前に逝去。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
39	73歳男性、身よりなし(家族とは疎遠)、年金受給者。医療費不安から通院自己中断となり、救急搬送時に癌・転移が分かったケース。	70	男	独居		1人	借家、アパート	市内のアパートに独居	無職		年金収入本人	5万以上10万未満	下回る	無			無保険	国保証	無		医療費、食費は無低の対象	救急搬送		1か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)				事例について(受診後の経過と転機)				自治体等への働きかけ結果と対応												
	中断(自院)	2023年まで当院通院歴があるが、その後は医療費不安から通院自己中断している。	直腸癌StageIV、肝転移、肺転移	<p>来院時、近所に住んでおられる友人(90代高齢女性)より聞き取り。他県出身。仕事の関係で当県へ。主に日雇い業に従事。友人の話によれば、妹は遠方在住。その他のきょうだいは逝去。離婚歴があるが元妻とは会っていたのではないかと事だが詳細不明。来院された友人以外に関わっていた方はいないとのこと。</p>				<p>救急搬送後、脳梗塞疑いで同日入院。入院後の精査で大腸癌、肝転移、肺転移が分かった。脳梗塞はトロンボリ症候群。倫理カンファレンス実施し、積極的な治療は見込めない状況である為、緩和治療をメインとして行っていく事となった。下部消化管内視鏡検査において腫瘍性病変を認め、人工肛門の造設も検討されたが、栄養状態も思わしくなく造設は難しいと判断された。これ以上の積極的な治療はない事とし、2025/10/10に1病院緩和ケア病棟へ転院。10/16病院にて逝去された。</p>				<p>来院時、所持金(通帳に20万円、所持金約7万円)あり。国保証作成し、無料低額診療で対応。 死亡時、葬祭扶助のみ区役所対応依頼した。</p>												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
40	呼吸器で救急搬送。大腸癌を放置し肺小細胞癌、多発肝転移。ケモ入院前に自宅で亡くなっていた方。	60	男	独居		1人	借家、アパート		無職、年金受給者		年金収入本人	5万以上10万未満	下回る	無	保険料(税)、電気代	無保険	国保証	無	有	生活保護基準以下だったが本人が申請を望まず。保険証を作成し入院費を無低	救急搬送	5年	3か月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について(生育歴、職歴、受診経緯)							事例について(受診後の経過と転機)							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他(自院)	かかりつけなし	肺小細胞癌	<ul style="list-style-type: none"> ・救急来院時、無保険状態。4年前までは運送業で働いており社保加入あり。退職後、国保加入手続きは行っていなかった。 ・収入は年金のみ、月額7万円。家賃は月3万円で支払いはできていると。受診時は所持金5万円、自宅に10万円はあると本人より話あり。必要なものを支払った後、生活保護申請をする事を勧めたが、生活保護申請は希望されず、退院後に働いて生活を立て直したいとの思いが強かった。過去に生活保護の受給歴あり、マイナスイメージをもたれてあった。 ・入院当初はあまり多くを語られず。身よりについては姉、姪(2人)が他県在住で連絡は取っていると言われたが、病院から姉や姪へ連絡はしなくて良い、と。 ・当初は人との関わりを拒否していた面があったが、少しずつ 病氣、治療に対する理解を得られてきた。元々はこれまで医療機関に通院したことはなかった。後に語られたが、自宅にカギが生えていて、自宅訪問されることは強く断られた。引越すお金もなかったが身内には迷惑かけたくない、とSOSは出さなかったと語られた。 							<ul style="list-style-type: none"> ・数年前から咳あり徐々に労作時息切れを自覚、安静時にも呼吸困難となり00コールされ救急搬送された。かかりつけなく、5年前に大腸癌を指摘されたが、その後退院なし。左胸水、GTで胸椎に骨破壊を伴うmass 詳細内Low所見散在。肺小細胞癌にて入院となった。大腸癌から進行、癌性胸膜炎、脊椎転移、肝転移、気管支腫瘍行し小細胞癌検出。OVポート作成し 半量から化学療法開始。2クール目が終わった後、いったん退院して、再入院で3クール目をおこなうこととなった。 ・入院時から生活保護申請をお勧めしていたが本人拒否。いったん国保作成。癌告知があり多少心境の変化があり、生保申請も考えようか、でもやめておこうなど、今後について気持ちが悪く動く事が多かった。いったん自宅退院されるため、訪問診療や訪問看護導入を提案し話し合うも、どうしても自宅を他人にみられたくないと断られた。入院中に止められていたライフラインの支払いなどを支援し、食料買い出しなどもおこない当院車両にて自宅へ送迎。再入院予定日に来院なく職員にて自宅訪問したが応答なく、警察通報し、管理会社を通じて解錠してもらったがすでに亡くなられていた。 							生活保護に対するイメージが悪かったことで本人が申請を躊躇していた。					